

第 59 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日時：2024 年 8 月 5 日(月) 17:00～19:00

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 会議室及びオンライン

1. 技術戦略プラン2024案について

機構から、技術戦略プラン 2024 の要旨案及び本文書の記載内容について、前回の議論も踏まえ説明した。

○技術戦略プラン2024の主要なポイントは以下のとおり。

- ① 1号機 ドローン等による内部調査結果の実施状況
- ② 2号機 試験的取り出し（内部調査及び燃料デブリ採取）に係る準備・実施状況
- ③ 3号機 燃料デブリの取り出し規模の更なる拡大の工法選定に係る検討結果及び対応状況
- ④ A L P S 処理水の海洋放出・第三者分析の実施状況
- ⑤ 中長期ロードマップ第3－①期に入るに当たって、燃料デブリ取り出し開始後を見据えた今後の進め方

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリのリスク評価について、燃料デブリの取り出しは新たな段階に入り、試験的取り出しに伴う状態の変化についても考慮すべきではないか。
- 事故分析の具体化に関して、未解明の事故原因（例：地震による被害の程度）について具体的な課題リストを作成し、事故分析の方向性を明確にする必要がある。
- トラブル対応策について、事故を起こした福島第一原子力発電所特有の予測できないトラブルが発生し、それに対する安全対策を行ってきたかと思うが、その対策について定期的な棚卸と見直しを行い、全体像を把握し経験を積み重ねて対策を進めていくことが必要。
- 気中工法におけるダスト飛散リスクについて、非常に重要な課題なので十分に対策を検討すべき。
- 5・6号機の使用済燃料についても、サイト全体のリスクとしては存在しているのでリスク評価の中に今後含めていくことを検討してはどうか。
- 大規模デブリ取り出しの工法検討にあたっては、冷却機能の維持・耐震性も重要な項目なので十分に検討すべき。
- 今後本格的なデブリ取り出しを進めていく上では、作業員の被ばく低減が非常に重要なので元請企業任せにするのではなく、東京電力が責任をもって作業員の安全指導・教育を行っていただきたい。
- 地元や社会に対する説明について、まだまだ不十分でわかりづらいところがあるので、説明方法・データの公表の仕方・HPへの掲載方法等を工夫し、透明性のある、わかりやすい説明を行ってほしい。

2. 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会について

機構から、第 13 回燃料デブリ取り出し工法評価小委員会の内容と 6 月に開催した燃料デブリ取り出し工法説明会の開催内容について説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

○水遮蔽の機能を活用した工法の検討について、船殻構造体の実現性の検討だけでなくその他の工法の活用についても検討していただきたい。

3. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、ALPS 処理水海洋放出の状況、2 号機使用済み燃料プールからの燃料取り出しに向けた工事の進捗、2 号機燃料デブリ試験的取り出し作業の準備状況、固体廃棄物貯蔵庫第 10 棟の運用開始について説明があった。

以上